

経営比較分析表（平成28年度決算）

埼玉県 熊谷町

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法非適用	下水道事業	農業集落排水	F3	自治体職員
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)
-	該当数値なし	6.09	108.60	1,890

人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
14,165	25.73	550.52
857	0.24	3,570.83

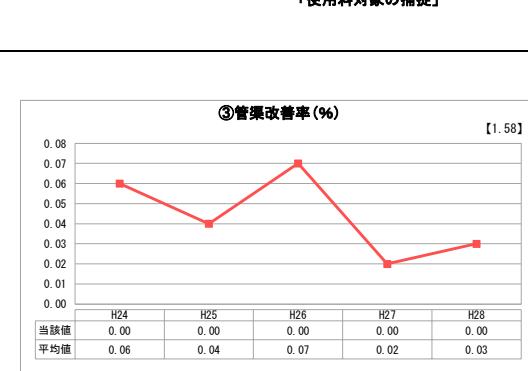
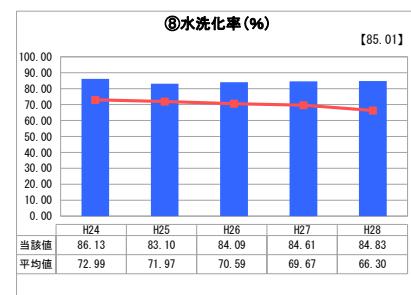
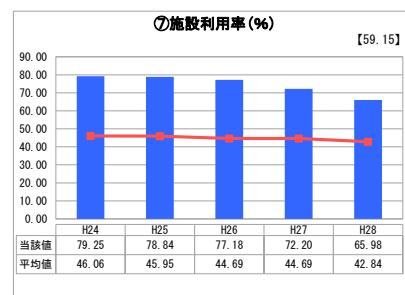
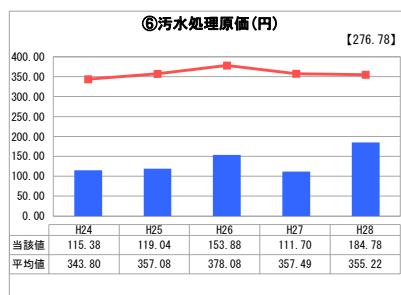
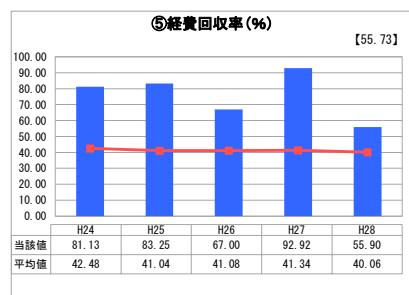
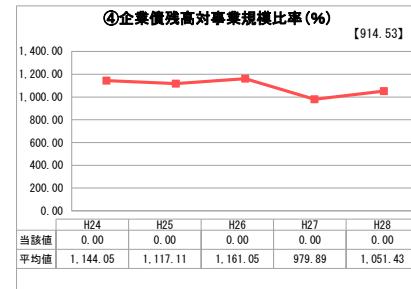
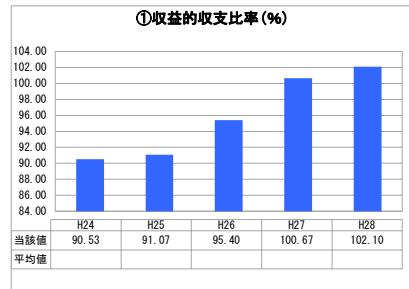
グラフ凡例

- 当該団体値（当該値）
- 類似団体平均値（平均値）
- 【】 平成28年度全国平均

分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

収益的収支比率は100%を超えており、会計上は黒字であるが、経費回収率が100%に至っておらず、処理に係る費用が、使用料のみでは賄えず一般会計繰入金から賄っている状況。
汚水処理原価は、類似団体平均値を大きく下回っている。施設の機器の経年劣化による故障が目立ち、修繕に要する費用が嵩み新規受託者がいない場合は、一般会計からの繰入金が多くなってしまう。
施設利用率は、類似団体平均値を上回り、施設の処理能力が、一日平均処理水量に対し、適正な規模となっている。
また、水洗化率も類似団体平均値を上回っている。



2. 老朽化の状況について

施設本体、管路については供用開始後11年で耐用年数を超えていないため老朽化は見られず更新の必要はない。
施設の機器については経年劣化による故障が目立ち、今後も年数を重ねるたびに各機器の故障が懸念される。

全体総括

使用料については、町内他地区の下水道使用料との均等を図る観点から直近の見直しは考えていない。使用料収入の増加を図るため、接続率の更なる向上を目指す。
今後は、経営戦略の策定と併せて機器の計画的な点検、更新が必要となる。

※ 法適用企業と類似団体区分が同じため、収益的収支比率の類似団体平均等を表示していません。
※ 平成24年度から平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、企業債残高対事業規模比率及び管渠改善率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。